

# 多様性と自立

杜陵高校創立100周年

◆ 中 ◆

「生徒一人一人の成長と夢をかなえる学校」を掲げる杜陵高。個々に事情を抱える生徒の誰もが前向きに歩めるよう、人と人との触れ合いや、意見を伝える機会を重視する。

8月、盛岡市上田の同校で開いた東北の定時制・通信制高校の交流会「とうほくT2(定通)サミット」。青森、秋田、福島、宮城の3県3校を含む計11校の約60人が「私が実現したい未来」をブロックで表現し、語り合った。「多様な見え方や考えから平和が生み出される未来」「行きたい道をしつかりと選び、たとえば他の人と

方向が違っていても、自分の信じる未来に進む」不登校や人間関係、家庭環境。生徒はそれぞれの歩みや悩みに向き合い、思いを形にした。定時制・通信制だからその特色を大切に

にし、複雑な社会を生きていこう、つらいときは声を出して助けを求めよう」と先生の言葉を共有した。住民が学校運営に参画する学校運営協議会では、生徒は大人たちの前で学校の特色を説明し、意見を伝えたり、音楽など特技を発表したりする。6月には、近隣の盛岡視覚支援学校

## 豊かな学び

# 人と交わり成長育む



とうほくT2サミットで語り合う生徒ら。人と  
の触れ合いと意見を伝えることで成長を重ねる

考案されたフロアバレーで交流し、相互理解を育んだ。12日の100周年記念式

典で仲間とダンスを披露する定時制生徒会長の桜小路宗良さん(2年)は「人前で話すのは苦手だったけど、

関わり方を学べる行事がたくさんある。社会に出たときに役立つと思う」と成長を実感する。

「話せる人」「憧れる人」「信頼できる人」との出会いを大切にし、人生観を広げる生徒と、支える教職員。同協議会委員で、自立や就労に困難を抱える若者支援に当たるNPO法人もりおかユースポートの加藤源広理事長(65)は「先生は型通りでなく一人一人に向き合い、生徒は学校の中で居場所と役割を見つけられている」と師弟の結び付きを温かく見守る。

杜陵高の定時制学習時間割を自分で決めることができる。制服はなく、クラスや学年、年齢に関係なく授業を受けられる。午前、午後、夜間部の3部制で、日々の授業で単位取得を目指す。定時制、通信制ともに3年で卒業を目指す三修制、4年の四修制を選択できる。